

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び

II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成

III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築

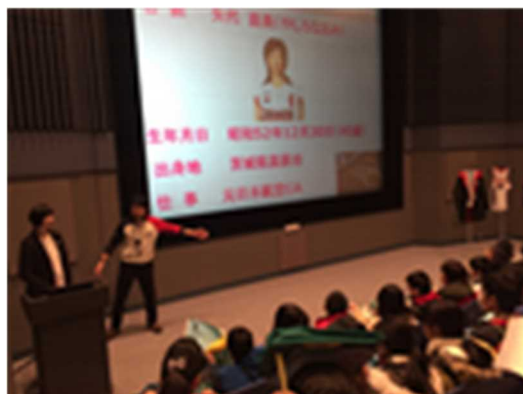
IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成

V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 札幌市 】

1 実践テーマ	【I、V】
2 実施対象者	札幌市立豊園小学校 5年生 87名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (道徳、総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	・ウィンタースポーツへの興味・関心を喚起し、オリンピック競技への理解を深めるとともに、冬期間における体力向上の取組のきっかけづくりとする。 ・夢の実現に向かって努力した人との出会いを通じ、自分の将来についての考えを具体的に深めていくための視点をもつ。
5 取組内容	・オリンピックの講話を聴講 ・ミュージアム館内見学 ・大倉山ジャンプ台見学 ○指導計画 [20 時間扱い] 「道徳」1 時間 ●オリンピックの精神を知る。 ・私たちの道徳『ペルーは泣いている』を題材に、オリンピックの精神を学ぶ。 「総合的な学習の時間」19 時間 ●五輪について考える ・平昌オリンピックの競技や出場選手について知り、応援したい選手について新聞記事などをもとに詳しく調べる。 ・札幌オリンピックミュージアムへ見学に行き、体験などを通して学びを深める。 ●まとめたことを伝える

- ・スピーチ形式にしてまとめ、学級の仲間に伝える。



6 主な成果

- ・平昌オリンピックの開催時期に合わせて学習することができたので、オリンピックに対する興味・関心が高まった。
- ・ミュージアムで見たり体験したりして学んだことが共有でき、その後の調べ学習に生かしたりそれをもとにスピーチしたりすることができた。
- ・平昌オリンピックの出場選手の中で、自分が応援する選手を決めて学習に臨んだことで、その選手や競技に「思い」をもってミュージアムに行き、学習を深めることができた。
- ・オリンピックのお話を聞き、夢をかなえるためには小さな努力の積み重ねが大切であることを学び、実践していこうとする子が増えた。

7実践において工夫した点 (事業の特色)

取組の内容に記載した通り。

8主な課題等

- ・教育課程への位置付けを考えると、「総合的な学習」以外ではなかなか関連が難しい。また、ミュージアム見学そのものだけでは学習として成立しないため、その前後の学習と課題意識が連続するように、いかに組み立てていくかが大切である。
- ・給食に合わせて帰校するとしたら時間的制約があり、それぞれの活動に十分浸らせることができない。時間を確保するために、ジャンプ台見学をしないで行くことも考えられる。また、全員が一斉にジャンプ台へ移動するのではなく、グループ毎やクラス単位で行動できれば、待ち時間が短縮され効率よく見学できると考える。

9来年度以降 の実施予定

経費や講師の確保等、持続可能な仕組みづくりを検討している。

